

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第4号

令和6(2024)年7月19日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

高温で病害虫の発生が早まるおそれがあるので早期発見・防除に努めましょう。

予想期間 7月下旬～8月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：やや少ない
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比103%、株率：平年比43%）(±)
・ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間はほぼ平年並(±)。
・ BLASTAM(7月中旬)では、一部の地域で感染好適条件及び準感染好適条件が連続してみられている(+).
- (3) 対策 ・ ほ場の発生状況を良く観察し、発病が見られた場合、早急にトライフロアブル(RACコードF:U16)等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備考 ・ BLASTAM(いもち病発生時期予測システム)の情報、薬剤感受性検定結果、令和6(2024)年度植物防疫ニュースNo.10を当センターHPに掲載中。

2 水稲 斑点米カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 7月上中旬の雑草地等すくい取り調査での発生量はやや多い(成幼虫数 ほ場率：平年比100%、頭数：182%) (+)。
・ 7月中旬の水田すくい取り調査での発生量は平年並(成幼虫数 ほ場率：平年比106%、頭数：67%) (±)。
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)。
- (3) 対策 ・ 穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期(出穂期7～10日後)までにエクシードフロアブル(I:4C)、トレボンEW(I:3A)等を散布する。
・ 防除後も斑点米カメムシ類が見られる場合、7～10日間隔で1～2回追加散布する。
- (4) 備考 ・ 令和6(2024)年度植物防疫ニュースNo.11を当センターHPに掲載中。
・ 近年、これまで見られていなかったイネカメムシによる斑点米や不稔の被害が県内でも散見されている。資料(農林水産省：「不稔米を発生させるイネカメムシの被害にご注意ください」)を参考に発生に注意し、発生がみられる場合には、出穂期の臨機防除を実施する。

3 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 7月第1半月までのフェロモントラップへのホソヘリカメムシ誘殺数はやや多い(+)
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)。
- (3) 対策 ・ 開花期の15日後から子実肥大後期(9月下旬)までにトレボン乳剤(I:3A)等を10～14日間隔で散布する。カメムシ類の発生が多い場合は、追加散布する。

4 いちご(育苗) 炭疽病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比257%) (+)。
・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)。
- (3) 対策 ・ 雨よけ栽培を基本とし、点滴チューブを用いるなど、できるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行う。
・ 本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。予防を主体に、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ 発病株周辺の株は、発病が認められなくても潜在感染している可能性があるため、早急に取り除きほ場外で適切に処分する。
- (4) 備考 ・ 炭疽病薬剤感受性検定結果、令和6(2024)年度植物防疫ニュースNo.9を当センターHPに掲載中。

5 大豆・野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ フェロモントラップへの成虫誘殺数はやや多い (+)。
 ・ 現在の発生量はトマトで平年並 (ほ場率：平年比 118%) (±)、なすで多い (ほ場率：平年比 560%) (+)。
 ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±)。
- (3) 対 策 ・ 新しい食害痕や虫フンを目印に早期発見に努める。
 ・ 施設は開口部に 5 mm 目合以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。
 ・ 幼虫は果実や花らい、結球部に食入するため、こまめにほ場を見回り、食害痕や虫フンを発見したら、プレオフロアブル(I:UN) (だいち、いちご、トマト、なす、きく等) やディアナ SC(I:5) (トマト、なす、きく等) 等で速やかに防除する。
- (4) 備 考 ・ 摘除した果実や脇芽に幼虫が寄生していることがあるので、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
 ・ 発生ほ場では、土中に残る蛹を殺すため、栽培終了後に十分耕耘する。
 ・ 令和 6 (2024) 年度植物防疫ニュースNo.5 を当センターHP に掲載中。

6 なし ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い (ほ場率：平年比 389%) (+)。
 ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±)。
 ・ 果樹カメムシ類の多発に伴い、頻繁な殺虫剤散布が実施されている (+)。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 ・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ ナミハダニ雌成虫及び卵に対する主要薬剤の殺虫効果を当センターHP に掲載中。

7 りんご 褐斑病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い (+)。
 ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±)。
- (3) 対 策 ・ 定期的に予防散布を行い、発生が確認されたらファンタジスタ顆粒水和剤(F:11)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ 令和 6 (2024) 年度植物防疫ニュースNo.8 を当センターHP に掲載中。

8 果樹類 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 7 月第 3 半旬までのフェロモントラップへのチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数は多い (+)。
 ・ 本年のスギ・ヒノキ花粉量は昨年比で少ないため、餌となる球果がカメムシの発生量に対して少なく、果樹園への飛来が増える可能性がある (+)。
 ・ 向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量はほぼ平年並 (±)。
- (3) 対 策 ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
 ・ 4 mm 目合以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
 ・ 園内で成虫の飛来を認めたら、カメムシ類に登録のある薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。
 ・ ピレスロイド系 (I:3A) 等の非選択性殺虫剤の連用は、各種害虫の天敵相を破壊し、ハダニ類やカイガラムシ類の多発に繋がるので注意する。
 ・ 令和 6 (2024) 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を当センターHP に掲載中。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
水稲	紋枯病	やや多	多	野菜類等	ハスモンヨトウ	平年並	やや多
	縞葉枯病	平年並	平年並	なし	黒星病	平年並	平年並
いちご	ハダニ類	平年並	やや多	りんご	ハダニ類	少	平年並
	アブラムシ類	やや多	多		斑点落葉病	多	多
トマト	コナジラミ類	多	多	きく	ハダニ類	平年並	やや多

○ほ場内外の除草は害虫防除の基本です！

- ・水田周辺の雑草だけでなく、水田内の雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）も斑点米カメムシ類の誘引・発生源となります。また、野菜類や花き類でも、ほ場内外の雑草はハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類の温床となります。適切な除草で、害虫が発生しにくい環境を作りましょう。

○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ（特定外来生物）

- ・クビアカツヤカミキリが樹木に寄生すると、幹や枝から、レンガ色でうどん状のフラス（幼虫が排出する、木くずと糞が混じったもの）が大量に排出されます。うめ、もも、すもも等の樹木からフラスが出ているのを見つけたら、農業総合研究センター防除課まで御連絡ください。
- ・クビアカツヤカミキリの卵（約1.7mm）は、成虫が発生する6～8月に樹皮のすき間に産卵されます。ブラックライトを照射することで青白く蛍光するため、被害発生前に見つけて除去しましょう。
- ・令和6（2024）年度植物防疫ニュース No. 3を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和6（2024）年6月現在、全国35都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。
- ・健全な種苗の導入及び発病株の早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
- ・サツマイモ基腐病に注意！を当センターHPに掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- 化学農薬の抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間7月20日から8月19日 7月18日気象庁発表）

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	10	80
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部（@tochigi_nousei）」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ・農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょう！